

八千代病院 病床削減について

八千代病院は、平成 26 年 5 月に許可病床数を 320 床（一般床 216 床・療養病床 104 床）から増床し、現在は 420 床（一般床 316 床・療養病床 104 床）で運用している。

一般床 316 床については、主に二次救急病院として、入院や手術を要する患者を 24 時間体制で受け入れている。

実績としては、平成 26 年以降のピーク時には、病床利用数 260 床、救急車受入件数 3,705 件、全身麻酔手術件数 967 件であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を経て、令和 6 年度には、病床利用数 211 床、救急車受入件数 3,407 件、全身麻酔手術件数 824 件となっている。

現在、稼働病床数の増加に向けた取り組みを継続しているものの、医療情勢の変化や患者の受診行動の変化を踏まえると、今後、患者数が大きく増加することは考えにくい状況である。

また、いくつかの病棟では、1 病棟あたり 58 床と病床数が多い一方、収納スペースや職員の休憩室などの付帯スペースが不足しており、これらの課題は特にコロナ禍において顕在化した。

以上を踏まえ、増床から 10 年を迎えることを契機として病床数の再評価を行い、従来どおり二次救急病院として地域医療を担うために必要十分な病床数を確保しつつ、患者および職員のアメニティ向上に資するスペースを確保する目的で、令和 8 年 4 月頃を目途に一般床を 20 床削減したいと考えている。

【表1】八千代病院の病床機能

病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
2024 年 7 月 1 日現在 (A)	58 床	212 床	98 床	52 床	420 床
2026 年 7 月 1 日時点(仮)の予定 (B)	58 床	192 床	98 床	52 床	400 床
増減 (B-A)	± 0 床	△20 床	± 0 床	± 0 床	△20 床

【表2】西三河南部西構想区域における 2024（令和 6）年病床機能報告結果

病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2024 年 7 月 1 日現在① (病床機能報告結果)	394	2,331	858	829	99	4,511
2025 年 7 月 1 日時点② (必要病床数推計)	585	1,703	1,770	940		4,998
差引数 (①-②)	△191	628	△912	△111		△487